

# 哲学歴史学科



## 日本史コース

### ● 日本史コースとは

日本史コースの教員は5名です。考古学・古代史・中世史・近世史・近現代史の教員が揃っているのですが、どんな時代に興味があがる学生にも対応できます。これは関西の国公立大学では珍しいことです。学生は1学年に5〜15名くらい。少人数での充実した教育が受けられます。

日本史コースでは毎夏、大阪府和泉市で合同調査を行っており、古文書整理、昔の慣習・民俗の聞き取り、フィールドワークなどを体験できます。大学院生も参加し、学年を越えて色々と学ぶチャンスもあります。

卒業後は公務員や企業を志望する学生が大半ですが、大学院進学者が多いのも特徴です。学芸員などになって、研究を自分の一生の仕事にしたいと考えている人にはおすすめです。

### ● 先生の研究



教授 にき ひろし  
仁木 宏 先生

出身が東大阪市なので卒論では河内国の寺内町(じないまち)をテーマにしました。その後、京都で学生・院生時代を過ごし、戦国時代の京都を、大阪市立大学に就職してからは豊臣秀吉の大坂城下町を研究しています。15世紀から17世紀の都市史が私の研究テーマです。港町、宗教都市など、北海道から沖縄まで100以上の都市を踏査しました。古い地図を片手に城跡や町並み、海岸や水田の中を歩くと、中世都市の形やそこを支配した権力者の意図が読み取れます。

一方、ゼミの院生・学生の多くは、足利将軍や、細川・三好・六角・朝倉・斎藤・尼子・毛利氏などを扱っているのですが、彼ら彼女らに刺激を受けて戦国大名も研究しています。

私の先祖は、中世、足利氏に仕えて守護などもつとめていたのですが、その説明がライフワークですね。

### ● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ  
小学生の頃から母が買ってきた日本史の漫画をずっと読んでおり、その頃から歴史そのものに興味関心を持っていました。その後高校生になり、子供のころから好きだった日本史を大学で専門的に学びたい、自国の歴史についてもっと知りたいと思ったことがきっかけです。

○自身の興味  
私は、古代の人々が持っていた信仰や、当時行われていたであろう祭祀について興味を持っています。特に二〇一九年に行われ注目を集めた大嘗祭は、8世紀頃に始められ現在まで続いている祭祀です。このように古くから行われている祭祀について、当時の様子やその背景にある信仰について研究していきたいです。

○コースの雰囲気・特徴  
日本史コースには世界史コースと合同で、年に何回かの見学会や旅行があります。ここでは、学生同士の親睦が深めたり、先生方とのきさく交流ができたりします。また、歴史学教室専用の部屋があり、そこで先輩方に授業についての質問をするなど、非常にアットホームな雰囲気です。



3回生 てらおか みおり  
寺岡 実紀 さん

### ● 教員紹介

**仁木 宏 教授** Hiroshi Niki  
日本中世史。都市史、地域社会史、権力論。現在はとりわけ、戦国時代から織田・豊臣時代の遊廓社会史も手がけている。『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社、2007)

**佐賀 朝 教授** Ashita Saga  
日本近現代史。特に近代大阪の都市社会史・地域社会史。近年は近世～近現代の遊廓社会史も手がけている。『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社、2007)

**磐下 徹 准教授** Toru Iwashita  
郡司制度の研究、古記録の注釈、大阪の古代史に取り組んでいる。『日本古代の郡司と天皇』(吉川弘文館、2016)

**齊藤 紘子 准教授** Hiroko Saito  
日本近世史。和泉地域の村落社会や領主支配、大阪の都市社会史について研究している。『畿内譜代藩の陣屋と藩領社会』(清文堂出版、2018)

**岸本 直文 教授** Naofumi Kishimoto  
日本考古学。古墳時代の研究。現在は、古墳時代から飛鳥時代への社会変容について、古墳の築造規制の実態から追究している。著書『倭王権と前方後円墳』(瑞書房、2020)

● 『麒麟がくる』ことで、中世社会の安定性や良き秩序が破壊された面があった点も忘れないでほしいと思います。

本書は一つのケーススタディですが、このように日本史コースでは、民衆の生活・文化、村や町からなる地域社会、政治や支配制度など、様々なテーマを複合的に学ぶことができます。

### ● 卒論タイトル例

- 古墳被葬者の性格とその移り変わり
- 九州探題の職制と大内氏の九州での勢力展開について
- 一九三〇年代末～一九四〇年代前半における大阪市市域拡張計画について

### ● 日本史コース オススメ入門書

『戦国時代、村と町のかたち』  
(日本史リブレット26、山川出版社)

【著者】 仁木 宏

【紹介】  
京都府長岡京市・向日市あたりでは、中世、百姓たちの自治意識が高く、数十の村が結集して会議を開くこともありました。また山崎(京都府大山崎町・大阪府島本町)はエゴマ油の専売などによつてもうけ、武士が手出しできない自治都市として繁栄していました。松永久秀がこのあたりの出身だという説もあります。やがて細川藤孝が足利義昭・織田信長の先兵としてこの地域に介入してきます。